

メープルレター（71）

春はいつの事やら

気がつけば三月弥生、早春のころ。梅や桃などあちこちから花便りの聞かれる頃ですが、ここモントリオールでは、ずるずると冬を引きずっています。雪の多い冬です。激しい風を伴う吹雪もあれば、静かに1日中降り続く雪の日もあります。ブーツの活躍する冬です。曇り空で映画を見に出かけて、映画が終わった二時間後には、降り積もった雪で車が埋まってしまい、見つからず、タクシーで帰り、翌日に戻り雪の中から自分の車を掻き出すのも良く聞く話です。

白い港の風景を見下ろす我が家の窓際には、義理の長男が先ほど預けていった亀が嬉しそうに、鉢（いえ、いけばなの平たい花器）の中で、小さい体を揺らし泳いでいます。猫も置いていきました。そうなのです、また、旅に出かけていきました。猫もすっかりなれ、子供5人のうるさい家から解放され、猫バカンスをまったりと過ごしております。義理の長男は、今回は、末っ子の1歳10か月の娘を連れて夫婦でサンフランシスコに出かけて行きました。ナッパバレーのワイナリーをあちこち訪れてみるとのことでした。

「僕から奥さんへのクリスマスプレゼントなんだ。やっと時間がとれたから出かけることにした。」

そういえば、義理の長男は、ここ2-3年ワインに凝っています。奥さんから長男へのクリスマスプレゼントはブルゴーニュワインのテイasting講座でした。あの性格の悪い末っ子のベビーシッターをした日のことでした。

「おいしいワインを飲んでテラスで食事と思っていただけで、サンフランシスコは、今は寒いらしんだ。気温は2-3度で雪もちらつくらしい。ちょっとがっかり。帰ってきたら、一緒においしいカリフォルニアワインを飲もうね。」

いつも土壇場で、前ぶれなしで、動物たちを置いていき、その夕方には旅の人になります。長男は、3年前までは自分の周り3メートル四方から出ようとしなかったのに、パートナーによってこれほど変わるものかと、目をぱちくりしております。ドリトル先生には可愛い長男。とても断れないようです。かといって面倒をみるのは、ドリトル先生でなくマダム田中なので、預かっている間は、マダム田中に頭を上げられないようです。

マダム田中の息抜きは、おいしいコーヒーとケーキでくつろぐひと時です。昨年の秋、近所に日本女性パティシエがケーキ屋さんを開きました。ここで、新しいケーキを味わって幸せに浸っております。パティシエは、大阪出身で、日本でケーキを学び、フランスで少し修行をし、モンリオールでキャリアを積み、高級日本料理店でデザート担当をし、評判をあげてきました。フランスでアメリカ人と結婚し、モンリオールに移ってきたそうです。その後離婚し、二人の子供を育てながら、ケーキ屋の道を歩んできたそうです。甘いパティシエのからい人生でしょうか。

パティシエのフランス人の公私共のパートナーが、テイクアウトもできる簡単なフランスの日替わりの家庭料理を片隅で食べさせてくれます。このお店で油を売って話に花を咲かせ、本日の定食を食べ（メニューがなくその日次第）、ケーキを食べるのが決まりのコースになっています。時折、誕生日にケーキを注文し、日曜日の朝は、クロワッサンなどのパンをどっさり買い込み、娘の家で婿殿においしいコーヒーを入れてもらって食べる、これも定番の一つになっています。ここの抹茶シュークリームがとてもおいしく、2-3度主人が注文したら、主人の顔を見る度に、抹茶シュークリームを用意し始め、断れず食べ続ける日が一ヶ月ほど続きました。

「僕は、たまには他のケーキを試してみたいのに。。」

と嬉しいような、困ったような苦笑いが返ってきました。彼女が作った、この地区の消防署の20周年記念のケーキが傑作でした。二段構えのケーキをメラメラと燃えがる赤い炎が飾っていました。

こうした冬のある昼下がり、マダム田中は4年ぶりにいけばなインターナショナルでいけばなのデモンストレーションをすることになりました。今や片腕になっている生徒にワークショップとデモンストレーションの半分を担当してもらい、他の生徒達も動員し、チームでデモンストレーションにあたることになりました。ワークショップは参加者の花材を分けて用意することになります。国籍がバラバラの生徒達も、準備にあたり一体となります。生徒の中には国の事情で避難民となってきた人も少なくありません。

「国事情を嘆くより、花を一本いける楽しみ。これがこのいけばなだから。美しい花が活けられるよう頑張りましょう。はい、手伝って。」

そうです。マダム田中は皆をこき使うのです。花材の葉は丁寧に洗い、花は水揚げをし、一人分ずつ束にします。手の空いている人にはバケツに水を入れて運んでもらいます。

コメンテーターにはいけばなについての説明書を送っておき、適宜説明に入れてもらい、マダム田中の片腕の生徒には、ワークショップの内容を段階別の写真をつけて説明するテキストを作ってもらい、参加者に翌日配信できるよう手配をしておきました。デモンストレーションは美しく、楽しく、ワークショップは合理的に、理解できるようにしました。というわけで、デモンストレーションとワークショップが終わった後は、全員がくたくたになりましたが、それぞれがそれなりに達成感があったようでした。

ワークショップは、花材を参加者に渡し、仕上げは宿題となり、メールで写真を送ってもらい、添削することにしておきました。手はかかりますが、お互いにコミュニケーションをとる楽しい機会にもなりました。嬉しかったのは、いけばなに触れてみたいと外部からやってきた若い、綺麗な女の子たち7-8人の参加です。IT関係のブロンド美人もいました。何と珍しいことでしょう。熱心に眺め、質問をしていました。暮れないの、高齢化の激しいメンバーたちの中で、彼女たちの熱気で、この日は早い春が来たようでした。